

● シリーズ 私の見た日本 Vol.197

ミャンマーの地方都市の生活空間との比較

DAWT THA BOR (ド タ ボア)



ミャンマーチン州生まれ。2018年にカレー工科大学を中退。2018年10月から2020年3月まで三原国際外語学院で日本語を勉強。2020年4月に岡山理科大学工学部建築学科に入学。現在に至る。

子どもの時から海外留学に憧れていた私は2018年10月に日本語を学ぶために日本に来ました。なぜ日本を選んだかという、日本は自然災害が多い国、一方で世界でも技術が発展している国と知っていたからです。地震や台風などに耐える建物の造り方や独特な日本の建築を学ぶために、2018年10月に語学留学生として、広島県三原市にある三原国際外語学院に入学しました。日本語学校の時から日本の大学で建築についてもっと学びたいと思い、2020年4月に岡山理科大学工学部建築学科に入学しました。ミャンマーの地方の街や建築、人々の生活空間について紹介し、日本と比較してみたいと思います。

本稿では、私が中学4年生の時から暮らしていた、カレー地区カレー市 (kalay district,

kalay myo) というミャンマーの地方中小都市を紹介したいと思います。カレー市の総人口は約500万人で、面積は2,338km²ぐらいです。カレー市の気温は、5月が25度から37度ぐらい、1月が14度から26度ぐらいです。カレー市は多くの小民族と一緒に住んでいます。そのため民族によって、季節ごと様々な行事やイベントが開かれます。そして、地方であるため、ちょっと豪華な建物もあれば、外から中が見通せる質素な建物もあります。カレー市はミャンマーの地方都市の中では小さい方で、マンションやアパートよりも、2・3階建て程度の戸建て住宅が多く、コンクリート造や木造の建物が多くあります。地震や台風は少ないですが、梅雨になると洪水が頻繁に起きます。カレー市の町並みは道路の左右にコンクリート造の建物が多く建ち並ん

でいます (写真1)。これらは、ミャンマーの多くの地方でも同様ですが、1階にお店を開き、2階や裏側が家族の生活空間となることが多くあります。日本のように店舗と生活空間を別々にするのではなく、家族の生活空間と店舗が1つの建物になっていることが多いです。写真2は竹 (bamboo) で造られた伝統的な民家です。このような建物は安く造れるし、建てるのも簡単で、ミャンマーの地方ではいまだに多く見られます。欠点としては、カレー市は平地であるため、洪水の時には直ぐに建物内に浸水するため壊れやすいです。また、夏は暑く、壁が薄く、騒音に悩まされます。

地方都市では、敷地内に木を植えて、木の影で家の中を涼しくさせることもあります。マンゴーやココナツの木を育てる人が多い



写真3 村と村の間にある旅行者の休憩スポット



写真4 ミャンマーの朝市場

です。スーパーなどで果物を買うよりも自分の敷地で出来上がった果物を食べ、また、近所の人と一緒に食べることでさらに美味しく感じることができます。夏は、木の下で休憩したり、おしゃべりしたりする人が多いです。ミャンマーでは、地方に限らず都会でも近所の方々とのつきあいが盛んで、一緒にご飯を食べたりする機会も多くあります。近所にどんな方が住んでいるかを知るのもミャンマーのひとつの文化です。

日本ではどんな小さなアパートでもエアコンが付いているのは当たり前で、そして、壁は断熱材を入れたり、窓は二重窓にして、寒い時には温かく、暑いときは涼しく感じられます。そのせいか、私も一人暮らしでアパート住まいでそうなのですが、隣の人と一緒にご飯を食べるところか、誰が住んでいるのかわからないような状況にあります。それが、ときどき寂しく感じます。ただ、自分が知りあった人は、皆優しく接してくれるので嬉し

いです。

写真3は旅行者のために村と村の間に造られたお菓子の店です。ミャンマーの地方都市での主な交通機関はバイクです。バイクで行き来している人のための休憩スペースでもあり、お腹が減った時に簡単に食事がとれる場所です。とても温かい雰囲気、優しさに囲まれた空間です。日本では、駅内に店舗やコンビニエンスストアがあり、バス停の近くには自動販売機があり、非常に便利ですが、ミャンマーはこういう状況です。

次に、野菜や果物などの売り場について、紹介したいと思います。写真4はカレー市のある市場です。市場では地面の上に敷きものをし、その上に野菜や果物などを置いて売るのが昔ながらの文化です。それを見て、手で触ったりして買うのが普通です。袋はほとんど使わず、自分のかごを持って買い物に行きます。日本では計ったものをしっかり袋で包んだものを買うのが普通ですが、それに

比べると全然違います。また、ミャンマーの市場では早朝から新鮮な野菜や魚などを並べてあり、それを朝6時ごろから一日分の食材を買いに行きます。朝10時ごろには多くのもが売り切れており、そのため、朝早くから買いに行きます。日本では、朝9時から夜10時ぐらいまでいつでも好きな時間に買い物に行けて、夜遅すぎなければ売り切れもなく、非常に便利ですが、その辺も大きく違います。

最後に、生まれて初めて日本という国に来ることができ、日本の伝統的な建築から現代的な建築まで現地で学ぶことができると嬉しく思っています。自分の国と日本を比較し、違う文化、習慣などを学びながら、自分の国も様々な分野で発展できる国にしたいです。そのために、日本で学ぶべきことに一生懸命取り組んで行きたいと思っています。



写真1 道路の両側に立ち並ぶ店舗兼コンクリート住宅



写真2 ミャンマーの伝統的な竹住宅